

第 78 回講演会＜2025 年 12 月 18 日開催＞

世界の片隅にある不条理とメディア

萩原 豊（執筆＝三上山 雄亮*）

■ 講演者……萩原 豊
(TBS テレビ報道局 編集主幹・解説委員長)

■ 司 会……河越 真帆
(本学グローバル・リベラルアーツ学部 教授)

2025 年 12 月 18 日（木）、神田外語大学グローバル・コミュニケーション研究所（GCI）は、第 78 回 GCI キャンパス・レクチャー・シリーズとして、TBS テレビ報道局 編集主幹・解説委員長の萩原豊氏を講師に迎え、講演会「世界の片隅にある不条理とメディア」を本学 7 号館 2 階クリスタルホールにて開催した。司会はグローバル・リベラルアーツ学部の河越真帆教授が務めた。

講演の冒頭で萩原氏は、メディアが社会の課題に向き合い続ける存在であることに触れ、社会の片隅に埋もれがちな現実にも光を当て、世論を喚起し、ときに政策にも影響を与える役割をジャーナリズムは担っていると述べた。



萩原氏

第一の事例として紹介されたのが、ハイチ難民をめぐる取材とドキュメンタリー映画『ダリエン・ルート』である。中南米の密林地帯「ダリエン・ギャップ」は“死のジャングル”とも呼ばれ、転落死や溺死、武装集団による略奪や暴力が横行する極めて危険な地域である。萩原氏は現地で一人ひとりに声をかけ、ようやく二家族への取材にたどり着いたという。金銭的な対価ではなく、本取材の意義を丁寧に説明し、相互理解を重ねることで信頼関係を築いたと語った。また、取材前には自身の中にも無意識の偏りがあったこと、しかし家族への思いや豊かな表現、人生への前向きな姿勢に触れることで、難民に対する見方が大きく変化していったことを率直に明かした。

第二の事例は、ブラジル・アマゾンを舞台とした映画『埋もれる叫び』である。環境活動家が殺害されているという報道をきっかけに現地取材を行い、ムンドウルク族の居住地域で進む森林破壊と違法な金採掘の実態を明らかにした。水銀汚染により神経系の異常を抱える子どもたちが多発していることが判明し、金の採掘で大量に使用される水銀が要因と指摘され、「ブラジルの水俣病」とも言える深刻な状況が語られた。違法業者への直接取材も行い、開発と環境保護の対立の背後にある構造的な不条理が浮き彫りにされた。

講演の締めくくりに萩原氏は、フィルターバブルによって社会やメディアが二極化する

現代においてこそ、異なる立場や価値観の中に共通項を見出そうとする姿勢が重要であると述べた。SNSをはじめとする多様な情報環境の中で育つ学生に向けて、あえて別の媒体や異なる視点の情報にも触れ、自らの視野を広げてほしいと呼びかけた。本講演は、学生一人ひとりがニュースの受け手としての在り方を問い直し、世界の出来事を「自分ごと」として考えるための大きな示唆を与えるものとなった。

*執筆/三上山 雄亮(神田外語グループ広報部)



会場の様子。講演終了後も多くの参加者が講師に直接質問する場面が見られた